

はーとふる

佐賀市立勸興小学校
特別支援教育コーディネーター
田島・高田・堤・帯屋 文責高田
2020年 1月 No.3

2020年が始まりました。寒い朝でも子どもたちの中には、朝の道具出しが終わると、昇降口から走って運動場に遊びに向かう姿や鉄棒の側で一輪車に挑戦する姿が見られます。元気いっぱいの姿に嬉しくなります。

さて、3学期が始まり、早速、係決めが行われた学級が多かったようです。

『脳番地トレーニング』（加藤俊徳著）には、「学校で日直や係活動があるように、家庭内で注目を浴びる係活動を毎日することで、脳の成長の強力な手助けになります。」とありました。

「脳は使えば使うほど成長します。発達した得意な脳番地を更に強化することで、子ども達の長所を伸ばすことができます。また、未熟であるために苦手な脳番地も、トレーニングで刺激することによって、伸びやすい状態になる。」とのことでした。

メリットとして3つ

- ①人のために行動する自主性と喜びを体験する。人のために行動して感謝される経験はモチベーションを駆り立てることになる。
- ②責任感を育てる。
- ③実行機能の訓練になる。家庭で、任務を遂行するために、手順を自分で考えて、行動を積みむことで、学校や社会に出てからも考えて行動する力につながる。

「はーとふる」NO.2では、学習面と生活面での苦手さについて掲載しました。

著者は、たとえば整理整頓が苦手。忘れっぽいなどあれば、早めに家庭内の係活動に取り組んでおくことを推奨されています。

既に、毎日家庭で決まった仕事を頑張っているお子さんも多いことと思います。決まった係活動がないお子さんは、無理なくできることから始め、続けることで、手を器用に動かす力もつき今後のさらなる成長につながると思います。



お風呂掃除



新聞をポストから持ってくる



お箸の配膳



洗濯物取りこみ

勸興小学校には、お子さんの成長に関する相談窓口となる「特別支援教育コーディネーター」が4名おります。お子さんのことで何か心配な事がありましたら、お気軽にご相談ください。お子さんのすこやかな成長について一緒に考えていきたいと思ひます。

「子どもの話を聴くときは」

以前、国立特別支援教育総合研究所の牧野泰美先生より次のような話がありました。

子どもの発達には、子どもの心に寄り添うこと・今をいっしょに楽しむことが不可欠であり人と人がつながったところにこぼは育まれる、その時に傾聴姿勢が大切であるということで、「子どもの話を聴くときは」という詩が紹介されました。ご一読していただけたらと思います。

「子どもの話を聴くときは」

1. 子どもの声を聴くときは、教えてもらう気持ちでね
一生懸命、耳傾けて、教えてもらおう、子どもの世界
子どもの世界の扉はね、内側からしか開かないの
信じるおとなに向かってね
2. 子どもの話を聴くときは、じっくり、ゆっくり、ゆったりね
言おうと思うと時間切れ、中途半端は苦しいよ
子どものつらさと言葉はね、外に出るまで時間があるの
待ってる時間も、聴いてる時間
3. 子どもの話を聴くときは、「聴いてるサイン」を伝えてね
あいづちうって、うなづいて、子どもの言葉を繰り返し
不安な気持ちの子どもはね、小さな合図で安心するの
「ほくを分かってくれてるな」って
4. 子どもの話を聴くときは、途中で止めたりしないでね
批判をしたりまとめたり、言い聞かせないでただ聴いて
おとなが口を開くとね、子どもの口が閉じてくよ
知りたいのなら、耳、開こう
5. 子どもの話を聴くときは、瞳のサインをみていてね
子どもはたいていおとなのね、目なんか見ては話せない
それでも分かってほしいとき、瞳で合図を送ってる
見逃さないで、みていてね
6. 子どもの話を聴くときは、顔の高さを合わせてね
上から見下ろされるとね、だれでもちょっと堅くなる
視線の低い子どもにね、しゃがんで視点を合わせてね
子どもが話しやすいから
7. 子どもの話に答えるときは、声の調子を同じにね
大きな声や高い声、おとなのいらいら伝わるよ
子どもは意味を知らなくてもね、声で気持ちが分かるんだ
言葉が出にくくなっちゃうよ
8. 子どもの不安を聴くときは、子どもの気持ちを感じてね
「なぜ?」「どうして?」が、問いつめに感じてしまうとき、あるの
子どもの心配、不安はね、「不安なの?」って繰り返してね
答えは、一緒に考えて
9. 子どもの不安を聴くときは、すぐに原因、決めないで
「地震のせいだ」「性格だ」、決めてもそれは答えじゃないの
子どもを取り巻く世界もね、子どもの心も単純じゃない
広く大きな視野で見て
10. 子どもの悩みを聴くときは、子どもの力を信じてね
しっかり聴いて、じっくり支え、色んな見かたのアドバイス
だけど最後は子どもがね、子ども自身で解決するの
おとなが信じた子どもはね、乗り越えられるよ、大丈夫



文：劇作家 篠原 久美子

これは、東日本大震災 3.11 で気持ちが折れそうになっている大人に向けて、「兵庫県教育委員会 防災マニュアル」に基づいて書かれたそうです。子どもたちのためならがんばれるのかもしれない、被害を受けて心細い思いでいる子どものために、大人にも元気になって欲しいとの願いが込められて書かれたそうです。